

## きかん紙

245号

1992.6.13 横浜室内合唱団発行

いよいよ梅雨の候を迎えて、じっとりと湿っぽくなってまいりました。お元気にお過ごしですか。

先週合宿のことについて書きましたが、念のため、赤城林間学園に問い合わせしてみましたところ、8月15日(土)、16日(日)、17日(月)の3日間があいているそうなので、予約をしておきました。今年は、この日程に皆さんの予定を合わせていただくということになりますが、よろしく願います。横浜「そごう」のなかへ、申請書を、石原純一さんに取りに行ってもらっています。赤城林間学園の職員は私達のことを覚えているようです。

(最近の団の状況について)

練習内容の計画が出ないこと

この問題については、練習の係(現在、石原、眞形)の責任が大きくなるのですが、事実を言うと、計画が立てづらいのです。出席が安定しないのが一つの悩みです。安定しないのは、日頃忙しい仕事などで仕方のない面も多分にありますから、それを責めているわけではありません。今週の結果が来週につながるかどうか分かったら、少しは立てやすいかと思います。なにかうまい方法はないでしょうか。一つの案としては、日を決めずに、月間の内容を提示するというのも良いかなと思ったりもします。しかし、その日にやることが分からないと、あまり意味のない計画に終わるかも知れないのです。

ヴォイストレーニングがまだ始まっていないこと

これも練習の係の方に責任があるのですが、渡辺さんに何とかまたお願いしてみようと思います。

団員全体で話し合う時間が取れないこと

一つの交流、雑談の時間が毎回の練習の中にあると良いのですが。以前、練習の途中に、ミサの時間があって練習が中断しているときやっていたような。この時間は、無駄なようで非常に良かったと、今さらながら思います。月に一回でも練習場で取れたらと思います。

来られない連絡を早めに

とも関係すると思いますが、パートのアンバランスが出ますので、それによって練習のやり方も少し変えなければならなくなるときもあると思います。分かっているときはよろしく願います。

何か気がついたり、言いたいことがあったときはお知らせください。良い智恵がありましたらぜひ教えて下さい。